学校経営の方針

御船町立御船中学校
校長　作田潤一

本校は、古くから上益城地方の政治・経済・文化の中心地であり、かつて県下屈指の醸造の商都として知られてきた御船町の唯一の中学校です。

上益城郡の中心校として、保護者や地域の協力の下、郡内教育・文化の拠点として輝かしい数多くの実績のある伝統校でもあります。

第６期御船町総合計画のもと、「みんながわくわくする御船町」の将来像を実現するべく令和２年度からの特色ある学校づくりを進めていきます。

生徒の落ち着いた生活態度や主体的な行動等に、これまで本校が生徒一人一人を大切にしてきた取組の成果があります。これまでの実践を基盤にしながら、全職員一致団結して、生徒一人一人に生きる力をはぐくむ創造的な教育活動を展開していきます。

「教育は教師論に始まり、教師論に終わる」という言葉があります。教育の成否を最終的に決定するのは、教職員の取組、姿勢であると考えます。教育基本法には「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」と規定されていますが、責任を他に転嫁せずに、自らの指導の反省から改善の糸口を見つけたいと考えます。問題が起きたとき、子どもたちが提起しているのは学校教育の課題としてとらえ、保護者と連携して解決に取り組みます。

今日、インターネットや教育書に膨大な量の情報があります。しかし、問題の解決策をこれらに求めるのではなく、生徒の中から答えを見つける姿勢を保っていきたいと考えます。そのために、教職員は、**体も心も生徒の傍に**いることを心掛け、優しい目で、大きな耳で生徒を観察し、思いを受け止め、生徒の小さな一歩を認め、ほめ、励まし、鍛え、伸ばしていくことを大切にしていきます。

ただ見守るだけではなく、**「認め、ほめる」種をまく**実践を日々根気よく続ける学校、教職員を目指します。生徒の頑張りや優しい面を積極的に発信することで、生徒の自尊感情を高め、それぞれの夢の実現を目指す意欲を高めていきます。生徒が元気な学校づくりを通して、御船町の活性化に寄与したいと考えます。

御船中学校　生徒指導の基本姿勢１１箇条

１　観察を怠るな。変化に素早く気付け。
２　見逃すな、避けるな、毅然として過ちを指摘せよ。（凡事徹底）
３　時間をおくな。後にまわすな。
４　事実を確認せよ。憶測や決めつけで判断したり行動したりするな。
５　人に任せておくな。しかし、自己満足や独善で終わらずに、協力を求めよ。
６　暴力は絶対に行使するな。
７　１対１で話し合え。言い分を聞け。長所を見よ。
８　安易に約束するな。独断で特例をつくるな。あいまいな妥協はするな。
９　その陰にあるものを見つめよ。裏側にあるものを見よ。
１０　誠意を尽くせ。ＩＣＴでは心は通じない。保護者と面談して連携せよ。
１１　小さな努力や思いやりを大きく褒めよ。生徒の良い面を外に発信せよ。

キーワードは**「挑戦」**

生徒の可能性を最大限に広げ、御船町の活性化に寄与する教育活動に創造的に取り組みます。

校　訓		
自　律	創　造	友　愛
（自ら鍛える生徒）	（自ら学ぶ生徒）	（自ら生きる生徒）

＜学校教育目標＞

ふるさとに誇りを持ち、夢の実現に向けて共に努力する生徒の育成

＜めざす学校の姿＞

◇　活気に満ちた楽しい学校
◇　環境が整備されて清潔で潤いのある学校
◇　家庭と地域から信頼される学校

生　徒　・・・　御船中で学んでよかった
保護者　・・・　御船中に通わせてよかった
地　域　・・・　御船中を応援してよかった
職　員　・・・　御船中に勤務できてよかった
町外の方・・・　御船町でわが子の教育を受けさせたい

＜めざす生徒の姿＞

◇　健康や安全に留意して落ち着いた生活をする生徒（自律）
◇　学力向上に努め、気づき、考え、行動する生徒（創造）
◇　自分と同じように他の人を大切にできる生徒（友愛）

御船中学校行動目標「御船中ブランド」
＜凡事徹底＞
◎　時間を守ることができる
◎　掃除に無言で集中することができる
◎　立腰の姿勢を保つことができる
＜利他の心＞
◎　自分を大切にすることができる
◎　思いやりの心をもって、人に接することができる
◎　自分から、笑顔で、大きな声であいさつをすることができる

新型コロナウイルス感染拡大防止が喫緊の課題であり、教育活動が例年通りに実施できないこと多くあると推測されます。生徒の健康・安全を第一に、進路の保障等に十分に配慮して学校教育を進めて参ります。生徒、保護者、地域の皆様、関係機関各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。　R2.4.16